

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年 6月29日

【評価実施概要】

事業所番号	4572100636
法人名	医療法人社団慶城会
事業所名	グループホーム仰星台門川
所在地 (電話番号)	宮崎県東臼杵郡門川町大字川内字新堂2671-2 (電話)0982-50-9010
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成19年6月7日

【情報提供票より】(19年 5月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤	8 人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2)建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	350 円	昼食 300 円
	夕食	250 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85・4 歳	最低	72 歳	最高	100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	瀧井病院 たかはし歯科 武富皮膚科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

豊かな自然環境に恵まれ広い敷地を利用した菜園や花壇があり、季節を感じさせてくれる。畑の収穫物を利用しての手作業や旬の食材を使っでの調理にと職員との暖かいふれあいがあり、家庭的な雰囲気を持つホームである。施設長はじめ管理者、職員一同が、いつも笑顔でやさしくとの基本理念で安心の暮らしの継続を支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 緊急時の職員の対応の不安について、火災を想定しての訓練(事前に職員には連絡はない)を行ったり、利用者一人ひとりに手作りの防災グッズを準備するなど取り組みをすすめて改善を行っている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価に取り組む中で、入居者一人ひとりの傾聴から情報収集を行い、職員間の話し合いを行い、ケアの改善に取り組んでいる。評価に積極的に取り組み、サービスの質の確保に活かしていこうとしている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 防災計画を立て地域の人も交えた中で、話し合いをもうけている。台風の時などは、施設を利用して地域に役立ちたいと考え各関係機関に申し出ている。前回の台風の際には、地域におにぎりを作り差し入れをするなどしている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関や施設内に苦情投函箱を設置している。苦情があった場合にはカンファレンスで検討し、職員間で周知徹底できるようにしている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の祭り、老人会・運動会などの行事に参加をしている。近隣中学生との交流も考えている。集落までの距離間など、地域性もあり、なかなか難しいのが現状である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いつもや優しく笑顔で接しようなどの10項目がホールの壁に大きく掲示されており、いつでも目に留まるようにしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者も職員も、理念を共有し実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	祭りや、運動会、老人会などの行事に参加をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価を受ける事により、安心感をもって今後の仕事に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容を議事録により職員に報告し、カンファレンスにおいてとりあげ検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	電話でのやり取りが多いが、研修などには、積極的に参加をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の写真や手紙を請求書に添え送っている。体調不良時や突発的な出来事があった場合は、電話で、早めに状況報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情窓口を明記してある。又玄関や施設内に苦情投函箱を設置している。意見や苦情があったときはカンファレンスを行い問題解決している。職員間で周知徹底できるようにしている。	○	さらに家族等が気軽に相談や苦情を出しやすく、また引き出せるように取り組んでほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	早めに利用者に伝え、理解してもらえるようにしている。職員の移動による大きなトラブルは起きてはいない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修を順番に受けられるように、配慮をしている。職員も研修への参加に意欲的である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設見学に行くなど、勉強会の機会を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族を交え施設を見学してもらったり、職員が家に訪問したりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に菜園の収穫を楽しんだり、調理の下ごしらえをしたりして、入居者の「主婦の知恵」をいただいたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者を職員の担当制にしている事で利用者の一人ひとりの把握を十分しており、ケアの向上につなげている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを実施し、面会時に家族の意向を聞いたりしている。ホームに来れない家族には、電話などでサービス内容の確認や家族の要望を聞くようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化があれば、カンファレンスを行い見直しをおこなっている。	○	状態に変化のない場合にも、定期的に介護計画の見直しを行ってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や、家族の状況に合わせカンファレンスを開き、対応を検討し、支援したいとの考えでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の月1回の定期受診を支援しており、早期に状況変化に対応できるようにしている。日に1回は、医師である理事長が顔を出し相談しやすい。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早めに家族との話し合いをしている。家族の意向を聞きながらケアをしている。職員間で終末期に向けた検討を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けは職員一同十分配慮している。利用者とのコミュニケーションは取れており、利用者は、穏やかに暮らしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせるようにしている。外出の希望があれば、取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で収穫したものや、山菜などを一緒に下準備し生活に張りをもたせている。出来る人には配膳や下膳、テーブル拭き等を手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を取り入れて、週6日入浴実施している。入浴を嫌がる人には、タイミングに合わせて、入浴を実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園の収穫や、調理の下準備、洗濯物のたたみ、掃除など、一人ひとりの出来ることはしていただいている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に2回ほどドライブを兼ね、外出している。写真を撮ってホームに飾ってある。今後も計画している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は常時鍵は掛けずに開放している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員に事前に知らせず、突然に災害を予想した訓練を行うなど、非常時に備えた、訓練をしている。利用者一人ひとりに手作りの防災グッズを準備している。運営推進会議で地域の人々の協力をお願いしている。	○	防災計画は出来ているが、職員の役割分担までは決めていない。実際に事が起こった場合誰が何をするかなどまで、検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量チェック表を作って、一人ひとりの状態把握をし、状態に応じて、補助食品を取り入れている。食器の工夫、食事の形態に配慮している。体重変化などの観察を十分にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下などに季節の花を飾り、季節感を出している。大きくトイレの表示があったり、各居室の入り口には違う花のプレートが掲げてあり、工夫が見られる。食堂には畳の休憩室も設けてあり、居心地の良い空間を作っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や馴染みの家具などを置きその人らしい居室にしている。好みや状況により、畳を入れている。		